

### 第三回 区民版子ども・子育て会議

【妊娠期、乳幼児期の家庭の防災～母子避難所から地域の避難生活まで～】

日時：2017年09月29日（金） 18:30-21:00

会場：成城ホール4F 集会室D

申込：36人 / 参加：36人（当日欠席6名、当日参加6名）

松田) 昨年度、初めて区民版で実施した。今回は、防災アクションの人たちと区民版を実施。前回は状況把握で終わったが、母子避難所はどうなっているのか？これからのものなので、レクチャーのあとに忌憚ない意見交換をしようと思っています。

では、さっそく今の状況をレクチャーしてもらいます。

蓑田) 子ども若者部で母子避難所の設計をするということで、難しいというのが正直なところ。被災地でどうなるのか？ベビースマイル石巻の文集、東京都の「災害体験に学ぶ妊婦や保護者に伝えたいこと」

体験談や苦労したこと、子どもたちの変化から抜粋してみると

妊娠9か月、無理な姿勢をとらないよう必死で生活。お風呂にも入れず心配。毛布配布は妊婦、高齢者優先だったが、妊婦でももらえなかった。妊娠初期は見た目がわからないので、妊娠していると言い出せなかった。なんでこんな時期に妊娠してるのか？と非難されたことも。

災害時には妊産婦や子どもを抱えている人たちは日ごろからは想像できない悲惨な状況。物資、食事がとだえる、孤立してしまう。

実際に震災がおきて、少しでも回避できるように母子避難所の開設を計画

#### ◎これまでの経過

災害対策課が中心になって施設の確保

現在7つの大学&高校と母子避難所として提供してもらうよう区が協定をむすんでいる。

資格のある人たちの協力：東京都助産師会・妊産婦支援班を編成、成育医療センターでは妊産婦受け入れ、避難所の運営に力をかけてもらう

指定避難所92か所 予備避難所(私立高校、大学)40カ所、福祉避難所73か所(高齢者、障害者)

#### ◎区内でどれくらいの人が避難する可能性があるか？

出生数 年間(27年度) 7500人弱が誕生 21人/日 の出産

世田谷区は子どもの人口が増えているのが現状

避難所に避難する想定 17%が避難する推定

母子避難所をたちあげていたとして 避難者30人ぐらい 1か月後には100人ぐらい過ごす状況

生まれる人たちが同じだけいる。指定避難所でも足りない

実際には居場所がなくて大変。熊本では先行してつくっている

◎7か所での受け入れ可能数はどれくらい？ 優先順位づけをする必要あり

分娩に対応できる医療機関 16

こわぐち産婦人科が出産をとりやめ、アクアも事業終了

医療機関は減少傾向で現在15カ所

都立母子保健院が昔はあったところが、現在空白地帯になっている

◎母子避難所は今年度から検討はじめた

資源の確保という点では先にとられている。

ばら色の未来を描きたい・・・どんな機能があれば安心できるのか

既存の仕組みをつなぎあわせて、すきまのない絵を描き上げるイメージ

できるところからはじめていく

■専門的支援：(医療機関、助産師)

物資： 乳幼児、新生児(体温キープする必要がある時に何が必要?)、妊産婦の必要とするもの、

情報： どこに行ったらいいのかわからない 情報提供

支援： 人、サービス ボランティアが主力 あやしたりする人や立場が同じ状況の人達

■施設に必要なこと

お風呂など生活、

病気対応、清潔さ

4日目以降の開設を想定 ⇒ものをそろえ、会場をととのえ4日目以降に開設できるように

★最大の課題：運営をどうするのか？

指定避難所：町会、自治体

高齢者・障害者避難所：施設が運営主体

母子避難所：単なる場所貸し 区の責任で運営

区：災害対策本部 子ども支援班 何かができるかというできない

現場でだれがやるのか、など決まっていない

状況が整理されているのは 秩序が整えられている 他の自治体

## ★安心して育児、出産できる運営をするためにはどうしたらいいのか？

子供の笑顔が絶えない世田谷区、災害時であっても・・・

- こんな母子避難所だったらいい
- 地域で団体でこんなことができる、やれる、
- 新しくできる母子避難所、
- 母子避難所に期待すること
- 区役所の人数ではまかないきれない

コントローラーは男女2人、3交代で6人を7か所 ⇒50人

人をはりつけるのにいっぱいばいで余力がないのが現実

外から応援の力も借りて、最低限50人の確保はしたい

物資が運ばれてきたときに該当する人に分配、情報提供などはボランティアの人たちの力も必要  
どういう人たちに声をかけたらいいのか

- 1) こんな母子避難所がほしい (期待すること)
- 2) こんな人たちに力をかしてもらえたら安心して運営できる
- 3) 対象者はどんなひとたち？

◎現在の対象：妊婦、産婦、乳児 (幼児、家族は検討中)

他人のご主人がいると授乳もはばかれる ⇒ご主人は指定避難所に  
安心してすごせないのでは？

家族単位でいることが心の安定につながるのでは？

具体的なマニュアルは次のステップ

運営訓練は次年度のプロセス

## ★限られた制約で最も守らなくてはいけないのはどこまで？

出生後1か月の赤ちゃんはどうする？線引きの意見も聞きたい

松田) 蓑田さん ありがとうございます。防災の専門ではないのですよね？

びっくりするほど何も決まってない状況は逆にチャンス。皆のアイデアがでるといいなと思います。  
妄想でも構わないと思いますが、あまりにもかけはなれても困る。

母子避難所に入れない人たちはどうする？は後半に話したいと思います。まずは母子避難所の話を  
しようと思います

➤ これからワークしながら話したいと思いますが、乳幼児当事者の声を中心に

### (グループ発表)

1) いろんなところにいたりきたりで、最後はいい話に

資源として専門学校、おでかけひろば、医師会、小児科医、幼稚園、保育園はどうか。

大学と協定しての職員の協力は？

コントローラーとなる人、管理する人が大学の教職員や学生が手伝ってもらえたらいい

母子避難所に入る人をどう決めるのか？誰が決めるのか？

個人ではなくチェックリストが必要では？

専門家のチームがあればいいのでは

区内だけでは大変 人口減らすというところからのアイデア

地方、田舎に友人がいたらそちらに移る ⇒ 地方での協定結べるといい

その地方が被災したときに世田谷区で協力できる

2) こんなのがあったらいい

心と体のケア 医療系

相談に乗ってくれる人がいると安心できる

一時預かりしてくれる⇒ あそびばで皆で子どもたちをみれたらいい

プレーパーク、ひろば 他県からの応援サポーターがあるといい

施設面 家族同士の避難所が近ければいい

大部屋では息苦しくなる⇒旅館、ホテルの施設を有効活用したらいいのでは

3) 誰がはいるのか？

誰がどう決めるのか？基準は決めておく

一定の基準は必要 ⇒マニュアルは必要

誰が運営するのか？ 普段なじみのある人がいてくれると安心

何人はいれるのか教えてほしい キャパはどのくらい？備蓄はどのくらい？

7か所でどのくらいいれるのか？どのくらいの備蓄があるのか？ ⇒貸してくれるスペースによる

母子避難所の前に指定避難所のキャパがしっかりしていけないのでは？

指定避難所がしっかりしていれば、そこでカバーできるのでは？

⇒指定避難所の充実が必要

大きい拠点が数カ所より小さい拠点がもっとたくさんあった方がいい

4) 誰までがはいれるのかを長く話していた

夫がいない状況で、物資を取りに行けない・・・家族単位が必要

集団でいると感染症の危険性もでる

定員があるなかでの条件は誰が決めるのか？

運営スタッフは誰が出て、誰をいれるのかをどう決めるのか？

長期化を想定しているのか？テンポラリーなのか？

医療連携の確立、看護師資格のある人の協力が得られるといい

5) 妊婦の安心、用意するものがいろいろと出た

平常時にできることはなに？おでかけひろばで普段来ている人も知らないことが多い

おでかけひろばでのスタッフ勉強会も必要

平常時にできることをもっと！

6) どこから手をつけていいのかさっぱりわからない

児童館は？⇒子どもたちの場所

グループに専門性の高い人が多かった

お父さんがはいれなかったら辛い ⇒ お父さんのふりして違う人が入ってくるのも怖い

日常がつながっていないとうまく機能していかない

ハードがあっても機能していかない

ミルクはどうする？お湯がでない時は？

女性はコミュニケーション能力が高い ⇒ファミサポ登録者に非常時に母子保健所に顔出してください、と声かけておくのは大事では？

外に出す必要もある。 出産直前、直後の人がヘビーだから他に出す場合は優先順位をマニュアル化しておかないと困る？

指定避難所から移動することはできるのか？⇒誰か迎えにくる仕組みが欲しい(乗り合いバスなど)

兄弟、夫の家族はどうするか？という問題は残る

<休憩 10分>

松田) 日常の話と地域の話の後半に・・・

幼稚園、保育園行ってない人 0歳から2歳で6割くらい  
つながりのない人達へのアクション  
防災子育て部会はそちらを  
パニックをおさえるための知識、技術を学んだりしている

世田谷での8000を超えている出生数  
避難所には誰も入れないくらい⇒90万で1万ぐらいのキャパ

答えはでないののでいっぱいアイデア出しをしてほしいです

### <グループ発表>

- 1) そもそも母子避難所は母子と指定の避難所があるのが無理では？  
大きな建物の中でやったら？長期化した時にはどうする？  
家の中を片付けるボランティアをまわしてもらえる仕組み  
情報が集まる場所であってほしい 避難所にするのか、情報提供の場にするのか
  
- 2) 商店街のなかでお店をやっている 0, 1歳の赤ちゃんづれのお母さんたちがいる時に震災がおきたら？ 商店街でできることがあるのでは？ 日常の中で防災について話しておくのが現実的ではないか 近所とのつながり、準備することをしっかりしておく  
専門職の方たちがネットワークをつくり、考えておく  
妊婦かどうかの名簿をもっておく
  
- 3) 何が話せばいいかわからないまま  
地域資源の話だと人が重要 どんな場？ ひろば、プレパ、公園、銀行、  
人は？ ひろば、プレパの人は近所の人たちだから 業務の人たちより在宅の人たちのサポートができるのでは  
ネットワークをつくっておくことで資源の有効活用  
物資を取りに行く時に もらうのに気を使う人もいる ⇒東京は我先に行くのでは？  
孤立してるなかで家で避難生活は辛い 皆で食を囲む 夕飯だけ皆で食べるのもあり ⇒火が使えるプレパに期待  
資源として行ける場のマップをつくっておく
  
- 4) 実家がある人は実家に戻る  
エリアによって違うのでは？  
避難所で生活する人、自宅で生活する人  
情報入手が大事。 どこから？ 身近な場所が必要 0-2歳児の居る家庭の防災訓練を受ける機

会は？ 災害電話の練習、いざ災害がおこったときの発信拠点は児童館やひろば  
町内会は身近な発信拠点 ⇒ つなぐことが大事

5) 0—2 歳の人がどういう人とつながれるのか？

健診、母子手帳配布時のときに行政の人から情報提供があるといい

船橋小では防災運動会を実施。⇒防災のときにつながれたり、きっかけになる  
地域での約束事 状況が変わる ローカルルールがあるのも大事

母子避難所 福祉避難所は対象者以外の人が入り、実際には使えなかったという話もあり、ルール  
作りも大事。

シナリオが大事 火事の場合、震災の場合 ⇒どれだけシナリオがあつて、それにむけての訓練も  
大事

防災無線も聞きづらい

5) 実際の有事の時には、子どもがいることをまわりにどう知らせるのか

玄関に旗を出す、チラシをだす⇒ 対象者としてわかるように

見極め ⇒ネウボラで有事の時に田舎に帰るのか？というアンケートをとっておくのもあり？

把握の方法

子育てアプリで物資提供の情報をだす

当事者が行けない場合には近所の人が行く

松田) 時間となったので、ここで終わりとなりますが防災アクションの人からのシート(災害時に整  
理するためのシート)を渡しておくので、宿題とします。災害時にどうするか？のアンケートにいれ  
たりも世田谷区ではしています。

【お知らせ】

せたがや子ども・子育て楽会として2月12日(祝)を三茶・キャロットタワー4Fをおさえたので、  
準備をしていきたい。区民版からのスピニアウト企画。

「わかもの」では新たなネットワークの動きもありますので、関心をよせていただけたらと思いま  
す。